

当時俗謡に、

竹に雀は仙台さまの御紋

三つ葉葵は天下さま

と歌われた。

あの男はいかめしく固めている青葉城の城門前に平伏し「恐れながら」と事のあらましを申し出た。番卒は

「暫く待て」

と言って重役に取継ぎ、家老に諮り、殿様に言上に及んだ。殿は、

「会津より遙々余に献上のため白雀を持参したとは奇特の至り、いたわって取らせよ。」

と言って籠の鳥と引き替に、金拾両を与えて帰らせた。あの男は山吹色の小判を肌に着け、まるで翅が生えたようにすつ飛んで帰国した。往復まる五日で家に帰った。男は女房子供と頭を突き合せて、